

第9回 昭和の森 親子田んぼ教室

親子で体験！ 米作り、田んぼの自然 田植え

武田宏子(千葉市)

日 時：2021年4月24日(土) 10時～12時 天気：晴れ

参加者：親子7組(大人9名 子ども8名 計19名)

指導員3名 ビオトープの会2名 管理事務所2名

担当指導員：岡山信夫 萩將勝 武田宏子

絶好の田植え日和。木々の緑輝く昭和の森ビオトープ田んぼ(蛸田)で親子田んぼ教室が開催されました。昨年度は、台風による土砂崩れ被害とコロナ非常事態宣言下で休校だったので、2年ぶりです。応募52名という多数でしたが、コロナ禍のため、人数を大幅に絞って、マスクを着用しての実施です。

この田んぼは、昭和の森ビオトープの会員が生き物の住みやすい環境づくりを目指して、葦原を少しずつ改変し、米作りは今年11年目に当たります。

最初に、ビオトープの会田んぼ隊長の岡山さんから、田植えのやり方についての説明がありました。①密を避けるために、1親子、30cmごとに印をつけた180cmの竹の棒を使用 ②1列植え終わったら竹の棒を30cm前に移動し、人も前進。③苗は塊より3本ほどちぎり、その根元を鉛筆のように持って指の第2関節ぐらいまで土に埋めること。苗の品種は「コシヒカリ」です。

畦に降り、3つの田んぼに分かれて植え始めました。最初はおそるおそる、ゆっくり、だんだん慣れてあっという間に田植えが終わりました。前に進んで田植えする方法は、安心感があり、田植えしながら、シオヤトンボの産卵やヤゴを見つけたり、逃げ惑うオタマジャクシを目前にしたり、生き物と田んぼを存分楽しむことができました。

田植え終了後は子どもたち待望の生き物捕りです。時間をかけ生き物ゲット。この水路と池は子どもたちが気軽に生き物観察できるようにとビオトープ会員の熱い思いで整備中の所です。土手の容器に続々と生き物が並びました。「これはぼくのゲンゴロウ」「これはぼくのホトケドジョウ」と誇らしげな子どもの姿が印象的でした。

指導員から田んぼの大小の生き物は「食べたり、食べられたりする関係」にありつなまって生きているという話をしました。最後に、稲の生長・ひみつに触れ終了しました。

アンケートより・・・田植えも生き物観察も楽しかった。子どもが夢中になって生き物採り、大いに自然と触れ合った。コロナ禍の中、企画に感謝。



親子で田植え 成長が楽しみ